

令和6年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特 1	学校名	県立盲学校										学校長名	鏑木 治				
副校長名							教頭名	阿久津 裕一					事務（室）長名	友部 久美子				
教職員数	教 諭	53	養 護 教 諭	1	常 勤 講 師	7	非常勤 講 師	4	実 習 助 手	5	寄 宿 舎 指 導 員	15	事務職員	4	技 術 職 員 等	16	計	108
幼児・ 児童・ 生徒数	部	1年(3歳児)		2年(4歳児)		3年(5歳児)		4年		5年		6年		合計		合計 クラス数		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
	幼稚部					2								2		2		
	小学部	1	1		1	1				2	1	2		6	3	5		
	中学部	1		1	1	1	1							3	2	3		
	高等部	1	1		3	3								4	4	6		
	専攻科	2	1	4		2								8	1	6		
	計													23	10	22		

2 目指す学校像

- ◆ 幼児児童生徒が毎日通うのを楽しみだと思える学校
- ◆ 教職員が誇りと自信、やりがいをもって勤務できる学校
- ◆ 保護者が子供を安心して通わせたいと信頼される学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに幼児児童生徒の指導上の配慮などについて全教職員で情報を共有し、安全・安心な教育環境づくり、指導体制の確認等を行った。 ・登下校時の安全を確保するため、通学指導や通学路の安全点検を実施した。 ・視覚障害のある幼児児童生徒一人一人に対し、障害の多様化・程度に応じた自立と社会参加ができるよう、自ら学び、心豊かにたくましく生きる力の育成に努めている。 ・視覚障害教育の中核として、県内全域からの要請に応じ、その支援の充実に努めている。 ・会議や委員会の統廃合など業務の見直しと削減、Google アプリを活用した各部 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒の実態に応じた安全教育の実施と、危機対応能力、規範意識等の育成。 ・キャリアパスポートの効果的な活用の仕方の検討と、生徒の進路決定につながる体験学習や学習活動の実践。 ・本校の教育内容・支援内容についての理解啓発。 ・校務支援システムを活用した表簿等の作成。

	<p>間、校務分掌間の連絡・調整、ワークフローシステムの活用等をとおして、業務の更なる効率化に努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退勤日に衛生委員会が放送を流すことで、退勤時刻を意識できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールへの保護者への理解啓発。
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究や授業研究での「触れる・読む・書く」の指導内容、方法の検討を通じて、授業内容の改善や教科・領域を超えた深い学び、教育課程への反映、専門性の再確認、維持、向上に努めている。 ・ICT機器の活用による学びやすい環境の整備と主体的に取り組める授業づくりに取り組んでいる。 ・「学びの履歴シート」を活用して重複課程に在籍する児童生徒の学習状況を把握し、個別の指導計画や年間指導計画等の作成に活かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数の中での多様性の育成や学習形態の工夫、共同で学びを深める集団の設定。 ・幼児児童生徒が保有する感覚を活用しながら物事のイメージの構築、興味や関心の発現、深い学びに繋がる単元計画の検討。 ・意欲的で、探求的な学ぶ力の発現を促し、伸ばしていくことができる教材教具の工夫と、「わかった」「できた」のある授業実践。 ・専門家等からの指導助言内容や研修等で得た情報の共有と、それらを指導に活かすための更なる工夫。

4 中期的目標

<ol style="list-style-type: none"> 1 一人一人の発達段階や教育的ニーズに応じた教育を行うための、授業改善の工夫や指導力の向上に努める。 2 健康な身体や豊かな心を育成するための健康増進や体力向上、多様な他者と触れ合い学び合う活動を通じた人間性・社会性の育成に努める。 3 地域や関係機関等のニーズに応じたセンター的機能の充実を図るための実践力の向上に努める。
--

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 安全・安心な教育環境の徹底	<ol style="list-style-type: none"> ①環境の整備、安全点検等の徹底による事故や感染症の未然防止。 ②自分や他者の健康や安全、自己管理能力を育てる指導の工夫。 ③いじめ防止、情報モラルの取組の強化。 ④校内の相談・支援体制の充実。
2 個に応じた学びの充実	<ol style="list-style-type: none"> ①授業の工夫・改善による主体的・対話的で深い学びの実現。 ②ICTを活用した学習活動の充実。 ③児童生徒の見本となる授業へ臨む姿勢。 ④各部の生活年齢と障害特性に応じた特色あるカリキュラム・マネジメント。 ⑤専門家との連携や研修等による教員の専門性の向上。

3 豊かな心と健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ①発達段階や視覚障害の特性等を踏まえた道徳教育の推進。 ②特別活動や舎友会活動における自発的、自治的活動の工夫。 ③交流及び共同学習の内容の工夫。 ④スポーツ、文化・芸術的活動への積極的な参加。
4 キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ①キャリア教育全体計画と授業との関連性の明確化。 ②自己理解、自己実現に向けたキャリアパスポートの活用。 ③臨床実習や現場実習等を含めた職業教育の充実。 ④ADL室の活用等による生活スキル指導の充実（寄宿舍）。
5 地域に開かれた学校とセンター的機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ①地域の小中学校等への積極的な支援と巡回相談、早期教育相談、通級指導教室の充実。 ②適切な情報発信と認知度の向上。 ③PTAや地域、教育・医療・福祉等の関係機関と連携した活動の推進。 ④コミュニティ・スクールの有効な活用方法の模索。
6 働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ①行事・業務内容の見直し改善。 ②メンタル不調の未然防止。